

会 議 録

会議の名称		第9回守谷生まれの食品推進協議会		
開催日時		平成30年12月4日（木） 開会：午前10時00分　閉会：午前11時20分		
開催場所		守谷市役所 1階 大会議室		
事務局（担当課）		生活経済部 経済課		
出席者	委員	西田会長，坂本副会長，杉原委員，黒島委員，梅木委員， 相良委員，今西委員， 計7人		
	市職員	経済課 北澤課長，会見主査，長妻係長，染谷係長 計4人		
公開・非公開の状況		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	1人
公開不可の場合はその理由				
会議次第		1 開会 2 会長あいさつ 3 報告事項 ・守谷生まれの食品登録事業者報告 4 協議事項 ・PR・活用方法について 5 その他 6 閉会		

確定年月日	会議録署名
平成30年12月25日	西田 昌明

審 議 経 過

1 開 会

事務局：本日は、お忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。ただいまから、第9回守谷生まれの食品推進協議会を開会いたします。はじめに会長からごあいさつをお願いします。

2 会長あいさつ

会 長：11月28日に皆さまに資料の配付をさせていただいております。それから、今日で12月に入りましたので、時の流れが早いのをびっくりしております。あと1か月で今年も終わります。当協議会も9回目に入ります。その間、皆さまの力強いご協力がこの会が前進してまいりました。感謝いたします。また、市職員のご支援ご指導によりまして、この会が順調に進んでいるわけですが、今後ともよろしく願いいたします。

本日は、登録事業者の状況報告、今後のPR方法について協議してまいります。よろしく願いいたします。

事務局：ありがとうございます。

会議を始める前に、資料の確認をお願いいたします。

事前に配付させていただきました資料となりますが、「次第」とカラー資料の「第9回守谷生まれの食品推進協議会」ございますか。お持ちではない方いらっしゃいませんかでしょうか。

さて、本日の協議会は、13名中7名の委員の出席をいただいておりますので、守谷生まれの食品推進協議会設置要綱第5条第2項の規定により、会議が成立することをご報告します。

また、本協議会は「守谷市審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき、公開となっております。本日は、1名の方の傍聴があります。

なお、本日の審議を記録するため、録音をさせていただきますので、ご了承ください。

それでは、会議の進行を、会長をお願いいたします。

会 長：傍聴される方々をお願いいたします。

受付で「傍聴する際の注意事項」を配布させていただき、その内容をご確認されていることと存じますが、あらためてご説明いたします。守谷市審議会等の会議の公開に関する指針より、発言や私語等、また会場内での撮影や録画または録音をしないよう、静粛に傍聴していただきますよう、お願いいたします。また、前回の会議にてお諮りいたしました会議録における発言者の氏名を記載することにつきましては、今回もそれによろしいでしょうか。

各委員：異議なし

会 長：それでは、次第の3、報告事項の守谷生まれの食品登録事業者報告につい

て、事務局から説明をお願いします。

3 報告事項

事務局：お手元の資料をご覧ください。表紙をめくっていただいた2ページになります。守谷生まれの食品登録事業者の報告です。

(資料P2～8に基づき守谷生まれの食品登録事業者の説明)

会長：ありがとうございます。今、事務局から登録事業者の報告がありましたけれども、今後も登録事業者が増えますように、件数が増えればそれだけ間口が広がります。そして、増えれば増えるほどお互いに協力し合って物事を前進させることができるかと思えます。委員の皆さまの中で、守谷の食品を取り扱っている店舗や事業者さんをご存じであれば、是非、情報の提供をしていただきたいと思います。

—了承—

それでは、4番の協議事項についてです。PR・活用方法について、事務局から説明をお願いします。

事務局：お手元の資料の9ページをご覧ください。

(資料P9～10に基づきPR・活用方法の説明)

会長：まずは、袋を作りたいという意見に対して、いかがでしょうか。皆さまからご意見をいただきたいと思います。

梅木：袋をつくるのは、例えばピーマンとかの野菜が入っていて、パッケージにした袋に印刷されている袋が欲しいということですか。シールを貼るのではないということですか。

事務局：そうです。例えば、ピーマンとかに限らずいくつかの商品を購入したときに、スーパーのレジ袋みたいなイメージと言われたのですが、守谷生まれの商品をお買い上げいただいたときに、この袋に入れてお渡ししたいと、その袋の要望が事業所さんからいただきました。会長にもお話をさせていただきましたが、市では、環境問題の中で、ごみ袋を減らす活動もされていますし、一方でごみの減量を図るところに、同じ市の中の協議会で袋を作るのも、そのバランスがどうなのかと思いましたが、袋もかなりの枚数になるでしょうから、ある一定の枚数を印刷したとしても後は、データでお渡しして、あとは店舗で必要に応じてご使用いただく形でも良いのかと事務局でも考えていますが、皆さまのご意見をいただけたらと思います。

会長：今、地球温暖化で二酸化炭素の削減を図っていますが、このレジ袋を作って利用してもらうことになると、地球温暖化との関係について、非常に問題が出てくると思いますが、いかがでしょうか。

梅木：確かに、海にもマイクロプラスチック、細かいプラスチックで、魚がそれを食べてしまったりと、食物連鎖で危惧されている時代だと思えますが、出来れば、プラスチック製のものは避けるのが大切なのかと思えます。時代の流れでしょうけれども、自分は紙袋を推奨していたのです。ジョイフル本田さんが、ずっと紙袋でした。たぶん、この数年でレジ袋になっています。紙

製品よりもプラスチック製品のほうがコストは安い、経済的な事情で、そうなったと思いますが、ここで、レジ袋というのは、厳しい話だと思います。ただ、結果的に作るのであれば、先ほどのデータでやるとか、なんらかの方法で使ってもらうのはよい気がします。ならば紙とか、ならばリサイクルとか、マイバックを持参するのが、第一だと思いますが、どうしても作るのであれば、そこにそのデータでシールのマークを入れても良いのではと思います。

会長：喫茶店などで使っているストローですが、今、大問題になっておりまして、ストローの素材を紙に変えるというような動きもあるみたいです。時代の流れで変わってまいります。この際、守谷の宣伝のツールとして、袋を作るとしたら、害を及ぼさないものを作るというのが一つの方法ですが、いかがでしょうか。

今西：先ほど話がありましたが、マイクロプラスチックが注目されておりまして、親会社の住友化学のほうでも検討しなければいけないと進んでいるところがあります。市としてどういうふうに進めるかとは難しいところだと思います。一方で、ごみの削減で考えた場合には、マイバックという考えもあり、それを推進すると、ごみを減らそうとしている部署と共同して、このマークを入れたものを配付できるようにするとかという考えもあるかと思っています。

杉原：確かに、公害問題とかあるかと思いますが、市として作れますか。実際問題として作れないと思います。店舗によっては、いただきます条例の袋を大量に供給してもらって、全てそれでやるとなると、配りきれないと思う。逆に、今は、紙の袋とかマイバックにする、マークを入れた袋を限定で商店じゃなくて希望者に配布であればできるような気がします。

会長：とても難しい問題です。この辺も機会を作って、改めて、皆さまのご意見を聞かせていただきたいと思います。

黒島：今の袋の件に関しては、皆さまと同じような意見です。シールについては、守谷小学校で、完食シールとして活用させていただきましたが、特に低学年はシールが好きなので、昨年、守谷生まれの献立として提供した時に、献立表にマークを入れ、全学年に完食シールとして配りました。今年になって、守谷生まれ味噌汁で、守谷生まれのものを沢山いれて、献立表にマークを入れたところ、完食シールとして配らなかつたら、子供たちのほうからシールはないのかと言われ、担任の先生を通してと言われ、急いで配ったので、今後も、シールの活用をさせてもらいたいと思います。のぼり旗は、学校によって様々ですが、配膳室や玄関などに設置しております。

相良：シールは贈答品の進物の箱の上に貼らせていただいています。このシールの説明をすることもありますが、忙がれるお客様もいらっしゃいますので全部が全部、説明はできておりません。元々が地元のお菓子屋ということで、そういう認識でいらっしゃっていただいておりますので、シールを貼っているか気付かれない方もあるのかなと思います。いただいた方は、もっとゆっ

くり目にされるので、守谷で作ったお菓子だと理解していただいていると思います。ポスターについては、皆さんでこのポスターが良いと選んでいただいたと思いますが、店頭に貼るとの考えだと、色彩的にちょっと目立たないものになってしまっていると思います。ガラス窓に貼っていますが、文字が認識できないし、何が書いてあるのか、例えばPR目的の作品であればそれを念頭において書いていただいたかと思いますが、守谷の地産地消を目的にしたポスターなので、雰囲気的には、もちろん良い作品ですが、PRとしてはちょっと影の薄い作品になっていると思いました。全体に黄色でぼけてしまっていて、何のポスターだかわからないと思いました。作品に対する批評ではなくて、PRとしての意味を持った作品としては、インパクトが少ないと感じました。

坂 本：私の勉強不足もありまして、この申請自体、気が付かなくて、商売している方であれば、やりたいと思います。少なからず、守谷で営業されている方であれば、こういうのぼりを出してやるのは、少なくとも宣伝にして良い印象を与えられることなので、皆さん、やりたいと思います。私自身も申請していなくて、今から急いで申請をしようと思いますが、基準がちょっと分からない、どこまで守谷の食品を使えばのぼりを立てていいのかというところもあって、申請がしにくいのではというところがあります。何かもう少し、分かりやすいようになっていると良いと思うし、広報以外で知らせることがあれば良いのかなというところを感じました。

会 長：ありがとうございます。協力してもらって、考え方を見直してみましよう。全体的なことは変えられませんが、部分的の修正することによって理解を深めてもらえるようなものになるか、考えてみたいと思っておりますがどうでしょうか。

事務局：7月2日から募集、申請を開始しました。当初、広報やホームページで周知はしていますが、なかなか集まって来なかったのが現状でございます。7月から9月までの間に10件ぐらいの応募しかなく、事務局側としてもこの状況だと周知が足りないと言うことで、こちらで飲食店を調べまして、リストアップしたお店に電話等をおかけいたしまして、その中で、店舗等にお邪魔し事業の主旨を説明し、お店の状況をお聞きして、許可条件に合えば申請をしていただいているような状況です。その結果が30件となっておりますが、先ほど副会長がおっしゃったように、周知が足りない部分と、皆さんに周知しているつもりではいるのですが、周知が図れていないような現状があると思います。今後、皆さんのお知恵をお借りしながら改善し、周知方法、事業の概要や該当するものが明確にできるようになれば、お店から来ていただけるような状況を作ることが一番良いと思いますので、よろしく願いいたします。

会 長：ありがとうございます。これは今後の大きな問題の一つだと思いますので、また機会を作って皆さまの意見を伺いたいと思います。色々なことを考

え、一番問題と感じていることは、皆さまの積極的な意見を聞いているのですが、その一つがレジ袋です。守谷SAやさい村の岡田さんから直接聞いたのですが、ぜひ、PRをしたいので、レジ袋を用意していただきたいということです。先ほど、皆さんからのご意見がありました、レジ袋を簡単に作るわけにはいかないですね。やり方によっては、簡単にできますが、やり方によっては弊害が出てきます。私は県の地球温暖化防止推進員ですが、片方では、温暖化を推進するようなことになってしまいます。有害物質は避けないといけないと思います。紙も同じことですが、プラスチック類とは違いますが、紙のほうが害は少ないです。そういったことで提案をいただいた方にも、率直に、PRになるのでやりましょうと言いたいところではあります、これを言えないところで、これもこれからの会議のテーマとして皆さんと打ち合わせをしていきたいと思えます。

事務局：来年度の事業でPR、活用方法について、1点補足をさせていただきます。今までの周知活動不足を踏まえまして、事務局で来年度について、事業者さん向けにマグネット等を配布、小中学生向けに守谷生まれの食品のクリアファイルを作成して、PRを図りたいと思っています。その他に、イベントなどで配布できるようにロゴマーク入りのポケットティッシュを作って配布、PRが図れたらと思っています。先ほどのシールは、小中学校にも配布できるよう、増刷を予定しています。その他として、パンフレットですが、登録された店舗や事業所さんのPRを兼ねた、守谷市産の食材を使ったマップ、お店の所在地、営業時間など出来るだけお店の詳細をいれて約20ページ前後の枚数で、持ち歩きしながら、お店を歩けるようなものを作れたらと、予算が通れば作成して少しでもPRが図れるような努力をしていきたいと思えます。

会長：それができたら良いですね。お店の存在が、扱っているものなど発見してくれると、また一つの力になりますね。

梅木：まさに、事業所向けと消費者向けを一緒にしてしまおうとなかなかうまいコンセプトが掴めないと思えます。地産地消を推奨する中では、経済効果を求められているわけだから、やはり、そういう使っているお店をどんどんPRをしていくこと、そのチラシを作るのは非常に良いことです。のぼりをあげることが大切です。守谷の商品を使うことによって、売上増になることは、まさにこちらの狙いであって、守谷の材料を使うことによって、自分たちのお店がPRされて、尚且つ経済効果を高められるということになれば、事業所を勝ち組にもっていったらあげる、これが事業所向けだと思えます。儲かれば、守谷の商品を使ってくれるわけだから、儲かるためにはどうすると違う方向を見た時に、消費者がそこを狙っていくようなものを見いだしてやる。それを全部まとめて一つというのは、なかなか難しいとは思えます。買う人の立場のところ、PRする時にはどうしたらよいのか、事業者が守谷のものを使いたい、使うことによって行政も一緒にバックアップしてくれるのは、

また、違う方向なのかなと思います。戦略的なものをみんなに情報や意見、アイデアをもらって、やっていくことによって、全ての人たちが、消費者も守谷のものを使ってよかったねとか付加価値をつけていくことがこの条例の目的だったので、そういう意味では、全ての触る人たちが、なんらか結果いい形になる。それを盛り上がっていくことによって、良い方向のスパイラルになっていくのかなと。多面的に色々な角度から検討してもらうのが良いのかなと思います。その一つとして、チラシとかパンフレット、地図を作るのは非常によいツールだと思います。

会 長：大変参考になる意見だと思います。今後のテーマの一つだと思いますので、皆さんと一緒に取り組んでいきましょう。皆さんの意見を聞きながら、それを具現化できるようにもっていきたいと思います。

黒 島：献立表についてご説明させていただきます。11月の献立ですが、茨城県、11月が地産地消強化月間となっていて、毎月第3週は、いばらきをたべようウィークとなっています。11月は一年間の中で、一番地産地消に力を入れた献立作成をしているところです。この期間の茨城県産の集計をしたところ、Aブロックは75.8パーセント、Bブロックが79.8パーセント。県の目標値が50パーセントとなっていますので、大きく目標を上回っていますが、守谷市産に限って計算してみますと、Aが6.5パーセント、Bが4.4パーセントということで、県の目標は市町村ではなく県内産ですが、守谷市産も本当は数値を伸ばしたいところです。現状としては、この期間はお米と飲むヨーグルトでした。年間を通せば、小松菜が使えたりするときもありますが、今回は無理だったので、この部分を伸ばしていきたいと思いますので、先ほど、住化ファームさんとお話しをさせていただいたのですが、今後、住化ファームさんのキャベツを使うとなれば、守谷市産のキャベツも献立に入れながら、やっていきたいと思います。

会 長：ありがとうございます。活用方法について、ほかにご意見等がありますか。ないようでしたら、次の5、その他について、事務局から説明をお願いします。

事務局：その他といたしまして、守谷生まれの食品推進協議会の委員は、委嘱によりお願いしております。生産者の代表、事業者の代表、消費団体の代表、市民、教育機関の代表、市議会議員というメンバー構成されていますが、今回、委員の有限会社守谷すたいるさんについてですが、現在、店舗を閉店しており、連絡がつかない状況です。今後の委員継続についてですが、事業者代表ということですので、店舗がない状況ですと委員として継続することは難しいと思います。ご本人と連絡を取り、説明したうえで、この協議会から解任となります。また、守谷すたいるの後に新しい店舗として、もりやコレクションがオープン予定となっています。このもりやコレクションのコンセプトは、生産者と顧客の皆様と共に守谷ブランド作る新しい店舗として、守谷の美味しい食をコレクションすると言われていています。守谷の美味しい食を発掘

し、生産農家、各種製造業者、卸売業者、料理人や研究者が連携し、研究と開発を続けて地産地消を実現し、守谷の食の価値を最大限に高めるとしています。今後、地産地消を推進するという共通点もあることから、もりやコレクションが事業者として、協議会への登録をいただけるかどうか協議していきたいと思います。

また、守谷S Aやさい村の2名ですが、毎回お忙しいようで欠席となっています。この協議会は、委員さんの半数以上の出席がなければ開くことができないと要綱上なっております。皆さまお忙しい中、ご参加いただきましてありがたいと思っておりますが、守谷S Aやさい村のなかで、委員さんの検討をしていただければと思いますがいかがでしょうか。やはり、協議会なので出席していただき色々な意見をいただきたいのが事務局の中でもありますし、出席するにも調整をいただいているものですから、その中でも毎回毎回出て来られない状況の方ですと、やはり会議としても成り立たないので、その辺を違うメンバーであれば参加できますということであれば変更してもらおうとか、この会議をもう少し活発にできるようにしていければと事務局では考えているところです。その辺の委員さんの変更も考えたいと思いますが、皆さんいかがでしょうか。

会長：委員さんと事務局の協力があって物事がうまく進むのだと思います。想像をするのですが、市の方では一生懸命やっております。ご支援ご指導をいただいたりしながら、会を上手に進める土台を作っております。委員のほうも忙しいのは重々わかりますが、やはり時間をとっていただいて、しっかりした協力体制をとって前へ進めていきたいと思っておりますので、ここにいる方にそんなことを言うのは大変失礼ですが、欠席しがちな方が多いので、是非、あまり出てこない方には、やはり会議に出てくれるように話をしないとイケないと思っております。いずれにしても、ルールは大事にしないとイケないと思っておりますので、会議の招集がかかったときは、できるだけ出席していただきたいと思っております。できない時もあると思っておりますので、そういう事情があることは承知しておりますが、できるだけ出席していただきたいと思っております。それから、新しいメンバーに加わる方、ルールからいって資格がなくなる場合には、ルールに従ってやっていくしかないと思っておりますので、その辺は事務局に一任したいと思っておりますがいかがでしょうか。

梅木：今のメンバーを外していくのを行政ではやりにくいものだと思います。一応、この中で、今まで一度も参加していない方に関しては、電話で今後、また来年に関してどうでしょうかと前ふりをして厳しいということであれば、その人は外れてもらうのが、ここで意見をださないと、多分、本人も行きにくいと思うんですよ。それを考えるとこちら側で、今後参加できないようであれば別の方にシフトしてというように話を投げるとか、やさい村であれば個人ではなくて、その団体で一人を出すことは可能ですかと、一人出してもらおう。であれば、団体の責任者として代表として来てもらうわけだから、そ

この職責はできてくると思います。諸団体、例えば、消費者の会とか男女で2名とかで出してもらおうと、形として整えやすいのかということもあると思うので、その辺は、今後、来ていない人に関しては電話で確認だけとる。会長もやりにくいと思うし、参加数が少ないと会が流れてしまうと思うし、緊迫したムードになると困るので、参加してくれる人にシフトする。自分も公務が重なって出られなくて申し訳ないと思うのですが、それで変わりの人が誰か出られる人がいれば自分なんかの枠を外してもらっても良いと思うので、活性化するような方向でやっていければ良いのかなと思います。

会長：事務局と相談しながら、これも検討しなきゃいけないと思いますし、検討の結果を皆さまにフィードバックできるようにしたいと思います。その他、何かございますか。

事務局：ふれあい道路を通ると、のぼりを目にしますが、飾っているのぼり旗は、色あせとか破損とか、まだ、大丈夫でしょうか。

相良：風当たりも強いので、色が褪せてきております。イオンなど室内のものは大丈夫です。7月から飾っているので、約半年になります。まだ、あと一枚あるので大丈夫です。あと、シールの大きさはどのようにわけているのですか。

事務局：大きいサイズは、中学生に配りました。事業者用には小さいサイズのものを配っております。サイズに関しては、使い勝手もあると思いますので、皆様のご意見があれば、サイズを変えることができると思いますので、要望が多ければ、使いやすければ、使っていただいたほうが良いので、使いやすいサイズにしていきたいと思いますので、また、ご協議をお願いします。

相良：先ほど言ったように、お店で啓発用品として、ティッシュをいただくのは、すごく嬉しい気持ちになると思うのです。よくティッシュの内側に紙が一枚入っているので、そこに守谷生まれのことが書いてあれば、こういう運動をしていますとPRもできますし、女の人は喜びます。

会長：ありがとうございます。

これで意見のほうも、本日のところは出尽くしたと思いますが、皆さまから頂戴いたしました貴重な意見は、今後の会の運営に必ず反映させていきたいと思います。皆さまには、引き続き協力をお願いいたします。よろしく願います。では、事務局にお渡しいたします。

事務局：次回については、来年3月頃、年度末に今後の方向性とか、話し合いをしたいと思いますが、3月は議会もあり、一番忙しくなるかと思いますが、早めにご連絡を差し上げて予定したいと思いますので、是非とも、よろしく願います。

5. 閉会

事務局：それでは、第9回守谷生まれの食品推進協議会を閉会いたします。
ありがとうございました。